



食を必要とする“1人”のために

発行元 NPO法人フードバンクTAMA
〒192-0085 八王子市中町 7-9 中町ビル 4F
TEL: 042-686-2512

Email: foodbank.tama@gmail.com

URL: <http://www.foodbank-tama.com>

フードバンクTAMAが、2年目に入りました！

▲フードバンクTAMAが2年目に入りました。活動は更に進展しております。この1年間、シンポジウムの開催や、フードドライブの実施、また、ひの市民フェアへの参加など、精力的に活動をしてまいりました。また、支援先の施設も36施設に及んでおります。

▲食品のご寄付については、コカ・コーラボトラーズジャパン様、マルコメ株式会社様、カルビー食品様等、多くの食品企業様にご協力をいただいております。また、日野市のアイグラン様からはパンを週2回ご寄付いただき、各施設に提供させていただいております。

▲近隣の農家様や個人の方々からは、お米や野菜などをいただける機会がますます増えてきました。ご寄付いただいている企業や個人の方々に感謝申し上げます。

▲食品提供先については、これまで通り、日野、八王子、立川、昭島市の児童養護施設や子ども食堂等に、継続的、安定的に配布してきました。

▲これまで、日野市15施設、八王子市13施設、立川市3施設、昭島市3施設、その他2施設、合計36施設に食品を提供してきました。

▲食品提供先が増え、各種イベント対応など、活動が広範囲になってまいりました。そうした進展に伴い多くのボランティアの方々が増え、精力的にお手伝いをしていただくことができるようになりました。感謝の言葉がありません。

▲運営資金については、昨年度は不足気味で、運営面での心配がありました。真如苑様や日野市の補助金をいただいたり、多くの団体や個人の方々から寄付金をいただくことができ、深く御礼申し上げます。よって、今年度は、円滑な運営を図れるものと思いますが、今後も安定した運営を図るために、資金面の充実を図ってまいりたいと思います。

▲2年目に入り、食品を提供してくださる企業の皆様やご寄付をお寄せいただける関係者の皆様方には引き続きご支援をいただきますようお願い申し上げます。

子ども支援プロジェクト報告

▲フードバンクTAMAは、子どもに焦点を置いた活動を行う目的に基づき、主に1人親世帯の子どもたちへの食料支援を行うために、今年の夏「夏休みフードバンク子ども支援プロジェクト」を実施いたしました。

▲子どもたちにとって、楽しいはずの夏休み。ですが、学校が夏休みに入ると、給食を食べることができず、普段より体重が減ってしまう子どもたちがいます。また家庭では、昼食に充てる食費や子どもが家にいることにより光熱費が増加することで、普段以上に苦しい生活を余儀なくしてしまうようです。そうした現状があります。

▲フードバンクTAMAの「フードバンク子ども支援プロジェクト」は、そのような子どもたちが夏休みを少しでも楽しく過ごせるよう、フードバンクから子どもたちに食料品をお届けしようという取り組みです。

▲今回は、7月下旬に立川市と日野市のお子さんがいるご家庭約30箇所に、様々な食品を詰めたダンボールを送る支援を行うことができました。また、いくつかの施設に、そこに集まるお子さんたちのために食料支援を行いました。

▲食品のご提供や寄付金をいただきました企業の皆様、また、個人的支援をしていただいた皆様にあつく御礼申し上げます。なお、冬休みにも、「子ども支援プロジェクト」を開催する予定となっております。引き続き支援をなにとぞよろしくお願いいたします。

～お母さん方からの声～

「今回はじめてでしたが、とても沢山の食品が入っていてとても驚きましたし、とてもありがたかったです。ほどよくジュースやお菓子も入っていて子どもたちがうれしそうでした。自分では普段買わないものもありおもしろかったです。非常食として保存もしていけるので、災害時に備えて少し保存もしておこうと思います。熱い中、本当にありがとうございました。」

「ダンボール1箱にたくさん食料をいただけて、本当にありがとうございました。食欲のある子なのでとても助かります。種類もたくさんあり、夏は麺類とてもありがたいです。食費はいつもかかるものなので、このような機会があれば、いつでも申込みたいと思います。ありがとうございました。」

「いただいた食品が、まるで宝箱を開けるように、皆で楽しみながらいただきました。本当に感謝しきれません。パスタも丁度無くなって買おうとしていた時でした。していただいたことを胸に、いつか他の為に力になれば！という思いで一杯です。子どもたちも大喜びです。本当にありがとうございました。」

企業・個人からの寄贈数 & 施設への寄贈数 (2017.4 ~ 2017.9)

受贈	主食 : 2.1 トン	麺類 : 120 キロ	缶詰 : 420 キロ	野菜 : 1.1 トン	菓子 : 156 キロ	調味料 : 82 キロ
提供	主食 : 1.6 トン	麺類 : 30 キロ	缶詰 : 270 キロ	野菜 : 1.1 トン	菓子 : 150 キロ	調味料 : 63 キロ

フードバンク活動に携わって：ボランティアスタッフの声

私がフードバンクのお手伝いをするようになってから、はや半年が過ぎようとしています。フードバンク TAMA の活動を知ったのは、あるシンポジウムに参加したことがきっかけでした。

それは今年 4/15 に日野市社会福祉協議会で行われた～共に考えよう「子どもの貧困」～というもので、本当に身近に「貧困」があるのだと思い知らされました。また貧困状態における子ども達や保護者の境遇は、知れば知るほど強く私の胸を締め付け、涙を禁じ得ませんでした。

いてもたってもいられなくなった私はその場でボランティアに登録し、何かできる事はないかと始めたのが食品配送のお手伝いです。取り柄が運転くらいに私にはぴったりでした。非常に楽しく、またやりがいを感じながら日々携わっています。

例えば、フードバンク TAMA を通じて知り合った子達のこと。

彼らが前に進んでいる近況を聞くと、疲れも吹き飛んでしまいます。またお届けにいく先々で、お付き合いが無くなっていった友人知人に再会できたのは思わぬプレゼントでした。

なかでも、ある施設で親しくしていたお子さんにお会いしびっくり、ともに抱き合って感極まりました。元気で頑張っているお子さんにとっても感動しました。

周りにフードバンクの事を話したら、気持ちよく仲間になってくれた方々もいます。今では私の親しい方々も仲間となり、一緒に配送してくれています。

そしてなにより実感しているのは、フードバンク TAMA がお届けしているのは食料だけではないという事。食を通じた支援が子ども達の豊かな環境につながっているのです。とても素敵で意義深い活動をしているフードバンク TAMA のお手伝いは、私にとってとても大切な時間となっています。

佐藤 彰子 (ボランティアスタッフ)

「おいしい。もっと食べていい?」：施設からの声

クリッパーズ (放課後等デイサービス) は小学生から 18 歳までの発達障害のあるお子さんが放課後や学校休業日に過ごす居場所です。子どもたちが、元気に過ごすために身体作りは非常に大切なものだと考えます。子どもたちに食べられることへの喜びを感じて欲しいと思っています。そういった食育の観点から、子どもたちへの食事提供を行うようになりました。子どもたちと一緒に考えていく中でどんなものを作ろう、こんなものが食べてみたいなどの意見が出てきました。

そんな折、フードバンク TAMA さんから様々な食材をいただけることになり、おやつや昼食作りのレパートリーが増え、普段はあまり食べたことのない食材に挑戦したり、食事作りを計画したり、食を通して成長している姿が数多くみられるようになりました。できたものを食べている子どもたちの表情はにこやかでこちらもうれしくなってきました。頂いた食材で何を作ろうか考えるのが日課になって、みんなで知恵を絞っています。

たとえば小松菜とパプリカを使って炒め物を作りました。新鮮で、野菜の味が十分美味しい一品ができました。野菜は子ども達にとって好き嫌いの激しいものですが「おかわり。」「おいしい。もっと食べていい?」と言ってくれ、完食でした。

ゆでたての枝豆を食べたことがない子が多く、帰る時間までずっと食べていい?と聞いて、ゆでたての枝豆をひたすら食べ続ける子もいました。美味しいものを子ども達に届けることが出来ました。パインアメのポテトチップス、賛否両論でしたが、味はパインアメそのまま、再現度はすごかったです。

何人か気に入った子もいて家に持って帰ってくれて全部おいしくいただきました。みんながこの味すごいんだよと言って盛り上がり、普段そういうものには手を出さない子も食べてみたり、いつもと違う姿が見られました。

みんなにとってはほんの少しの記憶でも 食べることができた、食べられるようになったということがとても素敵なことだと思いますし、小さな宝物になったのではないかと考えています。改めて自身の、そして子どもたちの食事について考えることができました。このような機会をくださったフードバンク TAMA さんにはとても感謝しています。

ありがとうございました。おいしかったです。

宮崎 雅子
(特定非営利活動法人ひの・I-BASYO「クリッパーズ」)

フードドライブ実施報告と今後の取り組み

フードバンク活動は、企業や個人の方々から食品を提供していただき、それを児童養護施設や生活困窮者等に無償配布するというシステムです。

当フードバンクに今必要なことは、フードドライブの取り組みです。フードドライブについて具体例で説明いたします。

当フードバンクのフードドライブの皮切りは、H28.12 月の日野自動車労働組合様による実施でした。その後、H29.7 月にひの市民リサイクルショップ回転市場様、日野市ごみゼロ推進課様、H29.8 月に日野市カトリック豊田協会様、H29.9 月に町田市室内プール運営会社 (協栄) 様、H29.10 月にひの市民フェアでは出展をかねて実施。H29.11 には FC 町田ゼルビア様によるサッカー公式戦での実施を予定しております。

これらのフードドライブで、市民の皆様方から大くの食品をフードドライブ会場にお持ちいただきました。ご協力いただいた市民の皆様、主催団体の方々に深く感謝いたします。

全国のフードバンク団体は今や 40 以上になっています。いくつかのフードバンクを調査したところ、フードドライブで集めた食品量は、当フードバンクとは比較にならない程の量になっています。その中の 2 例をご紹介します。

- ①フードバンク山梨：H28.12 月に約 6 トンの食品が集まった。
- ②フードバンクふじのくに：H27 年 1 月に実施。約 1.6 トンの食品が集まった。

こうしたフードドライブは、県や市を挙げて取り組んでおり、その点で、当フードバンクにおいても、行政組織にぜひご協力いただきたいと思います。

フードドライブが児童養護施設等への食品提供の生命線を握っていると言っても過言ではありません。今後も様々なフードドライブが開催されると思いますが、市民の方々の応援をどうかよろしくお願いいたします。ご家庭にある缶詰 1 つ、レトルト食品 1 袋であっても、1 人親家庭や生活困窮者の方々にとっては貴重な食品なのです。